

1 慰霊碑塔・慈母観音



基本情報

所 在：足羽山西墓地  
 住 所：福井県福井市小山谷町  
 (JR福井駅より コミュニティバスすまいる「笏谷」下車 徒歩25分、車15分)  
 連絡先：福井市 福祉保健部 地域福祉課 0776-20-5404 (直通)  
 建立者：慈母観音像…福井県宗教文化協会  
 慰霊碑塔…市民有志  
 建立年：慈母観音像…昭和22年6月  
 慰霊碑塔…昭和36年11月

碑 文

【慰霊碑塔 表】

慰霊碑

【慈母観音像 前 位牌】

福井戦災死死者諸霊位  
 福井震災死死者諸霊位

説 明 文

慰霊碑塔 (慈母観音)

この慰霊碑塔は、昭和二十年七月十九日夜半の福井空襲による、一、五八三名の戦災殉難者、同二十三年六月二十八日夕方、福井地方の大震災による一、六二七名の震災死者の諸精霊を慰めるため、多くの市民の浄財により昭和三十六年十一月に建立された。塔内に安置されている慈母観音像(けやき一本彫像の総丈二米 多田瑞穂氏造)は、それよりさき昭和二十二年六月福井県宗教文化協会(故 前田岳洋氏主催)が発願造像したもので、縁あってこの慰霊碑塔内におさめられています。その後、福井市による追悼式や、慈母観音奉賛会が主催する慰霊法要が営まれています。また、この慈母観音像を母親観音像として、市内四十余ヶ所の戦災・震災に関係する地に、西国観音霊場に準じた観音像を祀り慈母観音の御分身として分祀し、戦災・震災犠牲者の諸精霊の供養と福井市の復興と世界の平和を祈念して慈母観音札所会が結成され、毎年四万八千観音功德日に大祭を厳修し、当日この観音像を起点として各札所霊場を巡拝するならわしになっています。

福 井 市  
 復興慈母観音奉賛会

2 福井市戦災・震災犠牲者追悼式



※写真提供 福井市

開催概要 (平成24年度)

歳 事 名：福井市戦災・震災犠牲者追悼式  
 会 場：慰霊碑塔前  
 (JR福井駅より コミュニティバスすまいる「笏谷」下車 徒歩25分、車15分)  
 日 時：平成24年6月28日(木) ※例年6月28日開催  
 参列者数：約70人  
 連絡先：福井市 福祉保健部 地域福祉課 0776-20-5404 (直通)

式 次 第 (平成24年度)

1. 開 式 の 辞
2. 国 歌 斉 唱
3. 市 民 憲 章 唱 和
4. 式 辞：福井市長
5. 黙 禱
6. 追 悼 の こと ば：福井市議会議長
7. 献 花
8. 閉 式 の 辞

式 辞 (平成24年度)

本日、多数のご遺族並びに関係の皆様をお迎えして、福井市戦災・震災犠牲者追悼式を執り行うにあたりまして、戦災・震災で亡くなられたすべての御霊に対し、福井市民を代表し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

時の流れは早いもので、多くの尊い命が失われました福井大空襲から67年、また、福井大震災から64年の歳月が過ぎ去りました。この戦災・震災の犠牲となられた2,500人を超える方々の無念さに思いを寄せますと、改めて、深い悲しみが胸に込み上げてまいります。ご遺族の皆様には、愛するご家族を失い悲痛な思いを抱えられながらも、福井市の復興に大変なご尽力をいただきました。そのおかげにより、現在では、福井市は全国に誇りうる住みやすいまちとして、高い評価を得ております。

戦災・震災から歳月が流れ、記憶が風化していくことが懸念される中、戦争の悲惨さと災害の脅威を決して忘れることなく、次の世代に伝えていくことは、私たちに課せられた使命であると考えております。私たちは、平和への願いを継承するとともに、災害への備えを怠ることなく、安全で安心なまちづくりのため、たゆみない努力を続けてまいりますことを、ここにお誓い申し上げます。

また、昨年3月に発生した東日本大震災の被災地において、今なお、懸命の復興が進められているところですが、福井市といたしましても、被災地の方々の生活が一日も早く回復されますよう、引き続きできる限りの支援を行ってまいります。

最後になりますが、犠牲者のご冥福と、ご遺族をはじめ関係各位のご多幸とご健勝を心からお祈り申し上げます。式辞といたします。

平成24年6月28日  
 福井市長 東村 新一

3 戦災殉難者慰霊観音像（大手観音）



基本情報

所在：福井市役所の第2別館の北東の角 NTT西日本 福井支店 大手ビル前  
 住所：福井県福井市大手3  
 （JR福井駅 徒歩6分、福井鉄道 電停「市役所前」 徒歩3分）  
 連絡先：NTT西日本 福井支店 広報担当 0776-20-9527  
 建立者：遺族及び福井電報電話局職員有志  
 建立年：昭和39年7月（昭和62年1月移転/平成8年3月 観音堂建立）

碑文

【表】

戦災殉職者  
 慰霊

【左側面】

昭和二十年七月十九日  
 戦災殉職者  
 (故人名)

【観音堂】

大手観音

【右側面】

(故人名)

【裏】

昭和三十九年七月建立  
 福井電話局  
 有志  
 □□会

説明文

昭和二十年七月十九日夜半福井大空襲の際、福井郵便局電話課の職員など二十三名が殉職しました。

昭和三十九年遺族及び職員有志により福井市中央一丁目十七ノ十六福井電報電話局市外局中庭に観音像を建立し、慰霊してまいりましたが、昭和六十二年一月市外局の当地移転に伴い、この地に移しました。

昭和六十二年一月 NTT福井支社  
 福井電報電話局

平成七年が戦後五十年の節目にあたることから、恒久平和を願い観音堂を建てて安置することになりました。

ここに殉職者のご冥福をお祈りいたしますとともに、あらためて平和の喜びをかみしめたいと思います。

平成八年三月 NTT福井支店  
 全電通福井県支部

4 戦没者戦災死没者追悼式



開催概要 (平成24年度)

歳事名：戦没者戦災死没者追悼式  
 会場：プラザ万象  
 (JR敦賀駅 徒歩8分)  
 日時：平成24年7月16日(月) ※例年7月上～中旬開催  
 参列者数：240人  
 連絡先：敦賀市 福祉保健部 地域福祉課 0770-22-8118 (直通)

式次第 (平成24年度)

1. 開式の辞
2. 慰霊曲
3. 黙とう
4. 市長式辞
5. 追悼の辞：福井県知事、福井県選出地元国会議員、福井県議会議長、敦賀市議会議長、福井県遺族連合会長
6. 献花
7. 市長あいさつ
8. 遺族代表謝辞
9. 慰霊曲
10. 閉式の辞

式辞 (平成24年度)

本日ここに、敦賀市出身戦没者1,764柱、戦災死没者225柱のみたまをお迎えし、御遺族並びに御来賓多数の御参列をいただき、平成24年度敦賀市戦没者戦災死没者、追悼の式典を厳粛に挙行できますことは、誠に意義深く、謹んで哀悼の誠を捧げる次第でございます。

御尊霊には、先の大戦において、祖国を思い、御家族を思いながら悲しくも戦場に散り戦禍に倒れ、あるいは、遠い異郷の地で亡くなりましたことは、永遠に忘れることのない深い悲しみであります。

また、昭和20年7月12日の夜半、わが敦賀市は、日本海に面する都市として最初の戦禍に遭い、何等なすすべもなく市街地の大半が焼失し、古来、営々として築き上げられた歴史的、文化的遺産も瞬時にして焦土と化し、加えて何ものにも代えがたい市民の尊い生命が数多く奪われましたことは、誠に痛恨の極みであり、御遺族の方々の御心情をお察し申し上げますとき、お慰めの言葉もございません。

御遺族の皆様におかれましては、筆舌に尽くし難い深い悲しみを負い、戦後の混乱の中で、幾多の困難と欠乏の生活に耐えながら、雄々しく立ち上がり、郷土の発展に尽力され、今日を迎えられましたことに対し、深く敬意と感謝を申し上げます次第でございます。

終戦から67年の歳月が流れようとしております。空襲の悲惨さや、戦中戦後の困窮生活を知らない世代が国民の大半を占めるようになり、戦争の傷跡や体験も時の流れと共に、風化しがちでございます。

しかし、今日の繁栄や平和は、戦争によって多くの方々の尊い命が捧げられ、その犠牲の上に成り立っていることを、決して忘れてはなりません。

わがふるさと敦賀も諸霊の御加護と市民の不断の努力により、限りない発展を続けております。今後の市政運営に当たり、市民とともに地域の視点に立ち、創意工夫を惜みず、効果的、効率的行政運営を行ってまいります。そして市民生活の安定と向上に全力で取り組むとともに、ぬくもりに満ちた安心安全なまちづくりの構築を目指し、次世代に誇りと自信のもてる敦賀として受け継がれるように、最大限の努力を積み重ねて参りますことを諸霊の面前に額ずき固くお誓い申し上げます次第でございます。

終わりに臨み、諸霊のとこしえに安らかならんことをお祈りし、わがふるさと敦賀の繁栄と、御遺族の限りない御多幸を念じ、式辞といたします。

平成24年7月16日  
 敦賀市長 河瀬 一治

5 戦災慰霊碑



基本情報

所在：本勝寺  
 住所：福井県敦賀市元町19-21  
 (JR敦賀駅 徒歩18分)  
 連絡先：本勝寺 0770-22-3494  
 建立者：敦賀戦災遺族会  
 建立年：昭和56年7月12日

碑文

【正碑・表】

戦災慰霊碑  
 敦賀市長 高木孝一 書

【正碑・裏】

戦災犠牲者之霊  
 (故人名)

【副碑・表】

碑文

敦賀市は太平洋戦争末期の昭和二十年に三回にわたって米軍の空襲を受けました。即ち七月十二日午後十一時十二分から翌日午前二時までの約三時間B29爆撃機の焼夷弾によって四一九戸が焼失 百数十人の犠牲者が出ました。続いて七月三十日午前十時十五分頃艦載機P47六機が来襲 機銃掃射や爆風により二十三人が犠牲となった。三回目は八月八日午前九時頃B29一機が飛来し 東洋紡績敦賀工場に爆弾を投下 動員学徒を含む三十三人の命を奪ったのであります。この慰霊碑はこれら敦賀空襲を始めとし本市に縁故のある各地での戦災犠牲者の御霊を弔祭し 永遠の平和と郷土発展を祈願して建立したものであります。又この地は被災の中心地域であり 本勝寺のご厚意もあって御霊の安らかな眠りの場に選んだ次第です。尚建立に際し格別の御芳志を賜った方々に深甚なる敬意と感謝の意を表する次第であります。

昭和五十六年七月十二日

敦賀戦災遺族会

会長 (個人名)  
 副会長 (個人名)  
 代表理事 (個人名)

【副碑・裏】

寄附者御芳名  
 (個人名)